

令和 3 年度 事業報告書

自 令和 3 年 4 月 1 日
至 令和 4 年 3 月 31 日

社会福祉法人 空知の風

目次

法人事業報告・・・・・・・・・・・・ 3 ページ

たのしいどう事業報告・・・・・・・・ 1 5 ページ

きっちんどう事業報告・・・・・・・・ 2 5 ページ

あかるいどう事業報告・・・・・・・・ 3 2 ページ

わくわくどう事業報告・・・・・・・・ 4 1 ページ

歩～夢 事業報告・・・・・・・・・・・・ 4 8 ページ

楽らく事業報告・・・・・・・・・・・・ 5 6 ページ

令和3年度 法人事業報告

◇はじめに

～令和3年度事業の総括～

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の予防や、感染者が発生した場合の事業継続方法を模索する取り組みを行なう一方、利用者の就労活動について、売り上げの回復と工賃水準の維持を両立する取り組みを行いました。

北海道内及び岩見沢市周辺でも5月から6月、8月から9月にかけて2度の緊急事態宣言が出るなど新型コロナウイルスの感染が拡大し、利用者の活動や行事などについては縮小や中止を余儀なくされたものも多く、利用者のメンタルの支援やQOLについて様々な工夫が必要となりました。

当法人では利用者、職員合わせて1名の陽性者があり、濃厚接触疑い多数等で一部の事業を休止したこともありましたが、感染が広がることは無く、大きな混乱もなく再開することができました。この点につきましては利用者、ご家族にも多大なご理解とご協力をいただきました。

令和3年度の重点目標として掲げていた事項としては、

1. 感染症予防への対応

- 手洗い、うがい、手指消毒、館内の消毒、マスクの着用などを徹底する。
- 来客や業者など外部からの訪問者については入館のためのルールを徹底する。
- 万が一感染者が確認されても事業が継続できるように、必要な衛生用品を確保し、具体的な対応策を想定する。

2. 職員間の連携強化

- 職員の事業所間の行き来を極力減らし感染拡大予防に努めるため、オンラインやICTを活用した会議や研修などを行ない、連絡・協力体制を強化する。

3. 中・長期計画による事業再編計画の策定

- 新規GHの整備を検討。
- 就労事業の見直しの検討。
- 重度・高齢化対応の検討。

4. 地域公益事業の実施

- 地域の活動への協力。
 - ・地域イベントへの協力。
 - ・除雪協力。
 - ・他の社会福祉法人や企業・団体との連携など。

5. 新規利用者の確保と利用率の向上

- 利用者の意欲や楽しみにつながる活動や支援の提供。
- 利用者が健康を維持して利用を継続できる支援の提供。
- 新規利用者の獲得のため、特別支援学校や関係機関との連携を密にし、当法人の取り組みや実績を広く発信する。

以上の5つを掲げておりました。年間の総括としましては、

1つ目の**感染症予防の対応**については、基本的な感染予防（マスク、手洗い、消毒）を徹底して取り組みました。また、ガイドラインやフローチャートを作り、通所をお休みしていただく目安や、万が一陽性になったときの手順などを共有しました。また、ワクチン接種についても積極的に推奨し、ご理解をいただいた職員と利用者で96%以上の方が2回目の接種を終えています。

2つ目の**職員間の連携強化**については、感染予防の観点から事業所間の行き来を極力減らしているため、コンピューターネットワークやオンラインの会議などを活用し、各事業所の情報を共有することに努めて連携を図りました。

3つ目の**中・長期計画による事業再編計画の策定**については、6月に老朽化が激しかったグループホーム「冬暖荘」を移転し、新たに「虹のかけはし荘」として開所いたしました。また、かねてからの重度者への対応として、旧クリニックの物件を取得して活用することを理事会で承認しました。生活介護などの利用者が安全に利用できる環境を整備し、次年度中の開設を目指します。

4つ目の**地域公益事業の実施**については、感染拡大防止の観点から「子ども食堂放課後れすとらん」と「地域交流祭」を2年連続で中止いたしました。一方、冬季の岩見沢は今年度も豪雪により市民生活に大きな影響を及ぼしましたが、当法人の重機及び人員で近隣町内の除雪などにも協力し、大きな事故やけがなく対応しております。

5つ目の**新規利用者の確保と利用率の向上**については新規利用の方は大きく増えることはありませんでしたが、利用率はコロナ禍にあっても前年を上回る利用数となりました。令和4年度も引き続き、感染症予防対策を徹底し、利用者さんが安心して利用できるように取り組むとともに、コロナ禍にあっても利用者の工賃や生活が豊かになる様な取り組みを模索してまいります。

■役員会運営

令和3年度は理事会を6回開催しました。新型コロナウイルスの感染予防の観点から対面による開催の是非や会場、時間短縮などについて十分協議し、安全に配慮して開催しております。

令和3年度は4年に一度の理事・監事・評議員・評議員選任解任委員がすべて改選となる年でした。改選の手順を確認し、法令に従って改選を行ないました。改選の結果、橘文也理事長が再任されています。

開催された理事会では、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の法人としての対応についての協議をおこなったほか、職場におけるハラスメント防止に関する規程の制定を行ない、職場のガバナンスの強化を図りました。

また、豪雪地である岩見沢には欠かせない除雪用重機の増強についても協議を行ない、小型のタイヤショベル2台を購入することを議決しました。

将来の重度・高齢化に向けた課題として、バリアフリーの環境がある事業所の整備があげられておりましたが、岩見沢市内の好立地に旧クリニックの物件購入の打診があり、理事会で協議をした結果、金融機関からの融資を受けて取得するという事に決まりました。老朽した賃貸物件で事業を行っていた「あかるいどう」を移転し、生活介護事業に特化した事業所になる予定です。

また、令和4年は法人設立10周年の節目の年となるため、年間通して10周年を記念した事業展開を行なうことを決定しています。

その他の法人運営に係る理事会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。なお、入札等の案件は発生しておりません。

評議員会は定時評議員会のみ1回の開催でした。役員の改選という重要な議題があったため、感染対策を行なったうえで対面による会議といたしました。役員の改選の議案のほかに事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算等が行なわれました。

監事監査については、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き理事会で報告をしていただいております。

法人経営と会計については、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しています。法人改革の重点項目である財務規律の強化の面で、社会福祉充実残額の適切な計算と、法人の財産を地域社会に役立てる方策なども検討をしています。

○理事会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
			理事	監事
第1回 理事会	令和3年5月28日（金） 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・ 令和2年度事業報告の承認 ・ 令和2年度決算の承認 ・ 定時評議員会日程及び議案について ・ 次期理事の候補者の選定 ・ 次期監事の候補者の選定	6	2
第2回 理事会	令和3年6月19日（土） 16時00分～16時30分 西部連合会館 大広間	・ 理事長の選定 ・ 常務理事の選定 ・ 評議員選任解任委員の選任	6	2
第3回 理事会	令和3年9月21日 書面による決議の省略	・ 除雪用小型重機の購入について ・ 除雪用小型重機の購入費用について ・ 空知の風10周年記念事業について	6	2
第4回 理事会	令和3年12月3日（金） 16時00分～17時30分 北海道グリーンランド ホテルサンプラザ	・ 補正予算の承認 ・ 法人設立10周年事業について ・ 土地取得に向けた進捗について	6	2
第5回 理事会	令和4年1月12日（水） 16時00分～17時00分 空知の風たのしいどう 春いろカフェ	・ コンピューターシステムおよびソフトウェア のリース更新について ・ 旧かわなみ耳鼻科物件購入について ・ 物件購入資金の借入れについて ・ 除雪用重機の購入について	6	2
第6回 理事会	令和4年3月26日（土） 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・ 補正予算の承認 ・ 事業の変更及び再編計画について ・ 令和4年度事業計画の承認 ・ 令和4年度予算の承認 ・ かわなみ耳鼻科隣接の土地購入について	6	2

○評議員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			評議員	理事	監事
定時	令和3年6月19日（土） 14時00分～15時40分 西部連合会館 大広間	・ 令和2年度決算の承認 ・ 令和2年度福祉充実残額の計算の承認 ・ 決算監事監査報告 ・ 次期理事の選任について ・ 次期監事の選任について	7	3	2

■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

	日時	対象期間	担当監事	
			業務	会計
令和2年度第4期	令和3年5月18日 （書類による監査）	令和3年1月1日から令和3年3月31日	堀 監事	小嶋 監事
令和2年度決算	令和3年5月18日 （書類による監査）	令和2年4月1日から令和3年3月31日	堀 監事	小嶋 監事
令和3年度第1期	令和3年8月4日 （書類による監査）	令和3年4月1日から令和3年6月30日	網刈 監事	小嶋 監事
令和3年度第2期	令和3年11月9日	令和3年7月1日から令和3年9月30日	網刈 監事	小嶋 監事
令和3年度第3期	令和4年2月17日 （書類による監査）	令和3年10月1日から令和3年12月31日	網刈 監事	小嶋 監事

○外部監査の実施状況について（よつば会計事務所）

	日時	対象期間	内容
第1回	令和3年4月20日（火） 10時00分～19時00分	令和2年1月1日から令和2年3月31日	令和2年度決算書 および明細書確認
第2回	令和3年5月15日（土） 10時00分～17時00分	平成31年4月1日から令和2年3月31日	令和2年度決算書 および明細書確認
第3回	令和3年7月30日（金） 10時00分～17時00分	令和2年4月1日から令和2年6月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第4回	令和3年10月22日（金） 10時00分～17時00分	令和2年7月1日から令和2年9月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第5回	令和4年2月9日（水） オンライン	令和2年10月1日から令和2年12月31日	各科目残高確認 収支状況の確認

■役員体制の状況について（令和3年6月19日から）

任期満了に伴う役員・評議員の改選を行ない、体制が下記の通り変更されました。

理事・監事	備 考		理事・監事	備 考
理事長 橘 文也		⇒	理事長 橘 文也	
常務理事 橘 正樹			常務理事 橘 正樹	
理事 松田 愁司			理事 松田 愁司	
理事 横田 雅之			理事 横田 雅之	
理事 神田 薫朋			理事 神田 薫朋	
理事 西園 真樹	退任		理事 鈴木 英雄	新任
監事 堀 利幸	退任		監事 綱淵 秀幸	新任
監事 小嶋 孝之			監事 小嶋 孝之	

評議員	備 考		評議員	備 考
鈴木 達美		⇒	鈴木 達美	
奥村 弘美			奥村 弘美	
小松 大記			小松 大記	
綱淵 秀幸	退任 監事へ		窪田 秀樹	
窪田 秀樹			藤田 雅子	
藤田 雅子			眞田 雄三	
眞田 雄三			寺尾 孝士	新任
			尾崎 美世子	新任

■施設整備等について

車輛の整備としては、除雪用の古い小型重機が 2 台相次いで壊れたため、入れ替えを行ないました。また、小型乗用車 1 台の入替えを行ないました。

建物設備整備としては、新規グループホーム「虹のかけはし荘」を開所するにあたり、法令で必要な防火設備と内部の耐火ボード工事を行ないました。

修繕の整備としてはグループホーム「みないい荘」の雪害により壊れた屋根の修繕を行ないました。

◇車両の入れ替え整備

①たのしいどう 除雪用小型タイヤショベル

購入車種：クボタ建機 ミニタイヤショベル R430M

購入価格：3,685,000 円



②たのしいどう 除雪用小型タイヤショベル

購入車種：コマツ建機 ミニタイヤショベル WA30

購入価格：4,158,000 円（割賦購入 60 回）



③たのしいどう 小型乗用車

購入車種：ニッサン ノート ブルー

5 人乗り 4WD

年式：平成 26 年

購入価格：837,660 円



◇建物設備整備

①グループホーム「虹のかけはし荘」新規開設に係る工事

○耐火ボード等室内防火工事

工事価格：850,000 円

○誘導灯等防火設備工事

工事価格：521,400 円



◇施設の修繕

①グループホーム「みないい荘」雪害による屋根破損の修繕

前年度の雪害により屋根が破損したため、保険の適用として修繕をいたしました。

工事価格：3,120,000 円



■事故報告の状況について

□利用者さんに係る事故

- ①グループホーム利用者の行方不明による捜索 1 件（無事発見）
- ②支援中の利用者さんの負傷 1 件（転倒による）

□車両による事故件数

- ①人身事故 2 件（いずれも軽症）
- ②接触事故 4 件（縁石への接触、建物への接触等、けが人なし）

□その他

- ①利用者さんの支援中の労災事故 1 件（軽傷）

■行事の実施状況について

全国的な感染者の広がりや北海道全域での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などにより、イベントや外出へに対しては最大限の警戒を余儀なくされました。前年に引き続き地域交流祭など大きな行事はすべて中止し、事業所単位で感染対策を講じた上で少人数での企画を行なっています。

日 時	行 事 名
令和 3 年 4 月 2 日	事業開始式（事業単位）
令和 3 年 8 月 12 日	特別ランチ会
令和 3 年 12 月 24 日	利用者忘年会（少人数）事業単位
令和 3 年 3 月 22 日	新成人のお祝い



事業開始式



特別ランチ会



忘年会（事業単位）



忘年会（事業単位）



成人のお祝い会



■ 渉外活動（令和3年度）

渉外活動	職 名	氏 名
空知知的しょうがい福祉協会	理 事	松田
	代表者	TD 竹治・KD 横田 AD 廣岡・WD 橘 HM 松田
	幹事	中山・成田
・ 岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・ 岩見沢市障がい者サポート協議会	委 員	橘
全国社会就労センター協議会 事業振興委員会	委 員	横田
北海道社会就労センター協議会 事業振興委員会	委 員	横田

■ 苦情解決委員会および虐待防止委員会について

令和3年度の苦情体制

- ・ たのしいどう（受付担当者：山本 美加）（第3者委員：小松 大記）
- ・ きっちんどう（受付担当者：廣岡 拓）（第3者委員：小嶋 孝之）
- ・ あかるいどう（受付担当者：成田 純一）（第3者委員：小嶋 孝之）
- ・ わくわくどう（受付担当者：横塚 健二）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・ 歩〜夢（受付担当者：中山 拓哉）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・ 権利擁護委員会 担当：倉増麻貴子

令和3年度の第三者委員も交えた年度の総括会議については、前年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、集合しての会議を行わずに書面による会議といたしました。年間の苦情受付の状況や虐待防止の取り組みなどについて概要を書面で報告し、第3者委員からご意見をいただきまとめています。

令和3年度からは苦情解決委員会と虐待防止委員会に加え身体拘束適正化委員会を付与し、不適切な身体拘束が行なわれていないかチェックする機能を強化しています。

○ 苦情解決委員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			管理者	受付担当者	第3者委員
令和3年度 総括	書面による概要説明を郵送し、各委員より書面で意見を集約した	・ 令和3年度各事業所の苦情受付状況報告(書面) ・ 第三者委員からの意見(書面) ・ 令和4年度苦情解決体制の確認 ・ 権利擁護、虐待防止に向けて ・ 身体拘束適正化について			

■利用者現況調べ（令和4年3月31日現在）

① 年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	0	22	19	14	2	2	0	59
女性	2	16	7	10	2	0	0	37
総数	2	38	26	24	4	2	0	96

平均年齢：男性 34.6 歳、女性 33.7 歳、全体 34.2 歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	18	0	3	18	14	5	1	3.59
女性	5	0	3	8	11	6	4	4.00
総数	23	0	6	26	25	11	5	3.77

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	のべ支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	18,031,061	8,407,200	407人	46.6%
きっちんどう	19,964,091	8,241,500	270人	41.3%
あかるいどう	7,350,006	5,511,100	286人	75.0%
わくわくどう	13,668,207	5,996,900	168人	43.9%
全事業合計	59,013,365	28,156,700	1131人	47.7%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	のべ支給人数	平均工賃額	うちB型のべ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	8,407,200	407人	20,656	215人	26,395
きっちんどう	8,241,500	270人	30,524	210人	32,516
あかるいどう	5,511,100	286人	19,269	126人	26,465
わくわくどう	5,996,900	168人	35,696	168人	35,696
全事業合計	28,156,700	1131人	26,536	719人	30,268

令和3年度 たのしいどう 事業報告

1. 令和3年度事業の総括

令和3年度は、高等養護卒業後の新利用者さん1名が、仲間へと加わっています。令和3年度は、引き続き感染予防に努めながら、生活スタイルや環境も変化させながら、今出来ること一つずつ大切に、作業や活動へと取り組んでいます。変化が苦手な利用者さんも多い中、利用者さん一人ずつの努力とご家族や職員の協力のおかげで、1年乗り越える事が出来ています。不安や戸惑いの日々も続いておりますが、環境が変わったことで、新たに見えた利用者さんの一面や利用者間の繋がりも発見することもありました。今年度も、降雪の影響により、交通機関の乱れや交通障害、雪害なども多く、通所率が下がる状況ともなりました。生産活動の収入では、コロナウイルスの影響が、色々な場面で引き続きありましたが、企業からの新たな下請けも少しずつ入り、利用者さんのやりがいにもなっています。飲食店の休業や時短営業、学校の休校やリモート授業への切り替えにより、パンやお菓子の受注、販売も出来ない状況ではありましたが、仲間の施設間との繋がりにも助けられ、イベント毎に合わせたお菓子の注文を頂き、収入へと繋げています。しめ飾りの製作は、年々利用者さんのスキルも向上し、完成度の高い製品になっております。今年度も、目標数を上回る注文を頂くことが出来ております。1年の成果は、一人ずつの自信と達成感にもなり、次に繋がる意欲や目標ともなっています。事業所皆で何かを進めていく事は減りましたが、各事業班毎の連携はより強まった新たな一年になったと実感しています。

2. 実施事業

- 就労継続支援事業B型 定員25名 現員18名
- 生活介護事業 定員15名 現員16名
- 短期入所事業 定員 2名／日

3. 令和3年度の利用状況

- たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	69.7%
開所日数	25	23	26	25	23	24	26	23	24	24	23	26	291	
延利用回数	701	672	716	696	646	675	713	686	664	635	606	711	8,121	

平均実利用数 27.9 名（小数点第 2 位以下切り上げ）

4 月より、高等養護卒業後の新利用者さん 1 名が加わっています。
また、現員数が、定員数に満たしていないため、利用率は低くなっています。

■就労継続支援事業 B 型（定員 25 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	60.4%
開所 日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用 回数	386	366	391	372	361	371	385	373	347	333	319	378	4,382	

平均実利用数 15.1 名（小数点第 2 位以下切り上げ）

4 月に 1 名の新規利用者さんが、新たに利用開始しています。

■生活介護事業（定員 15 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	86.0%
開所 日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用 回数	315	306	325	324	285	304	328	313	317	302	287	333	3,739	

平均実利用数 12.9 名（小数点第 2 位以下切り上げ）

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用 回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・パンと菓子の製造販売

～パン工房では、全国の事業所様との取引も継続的に進め、パンやロールケーキ、焼き菓子の納品、発送を行なっています。季節やイベントに合わせた受注も売り上げへと繋がっております。今年度は、広報誌や雑誌などの取材もあり、春いろの商品を知って頂ける機会も頂いております。9 月には、「日本農福連携協会」に法人として加盟し、春いろの商品も登録しております。農福連携協

会との繋がりでは、札幌矯正管区で収穫した「サツマイモ」を春いろで購入させて頂き、ロールケーキとスイートポテトを製造し、販売しております。納品先の減少や販売する機会は今年度も減りましたが、色々な方の支えや縁により、一年の売上に結び付いています。

- ・利用者昼食、グループホーム夕食の製造委託作業

～季節に応じた旬の食材を使用し、彩りある、栄養バランスを考えたメニュー作りに努めています。今年度は、8月に利用者さんへ特別ランチとして、ステーキを提供しています。少しでも利用者さんが、食を通じて楽しめる企画を提供できればと考え、実施しております。また、月1回の「お楽しみメニュー」も利用者さんから好評を頂き、企画を継続して行なっています。日本だけではなく、海外のメニュー等も取り入れながら、食への興味や関心、季節感が感じられるメニューを提供するよう心掛けています。

- ・紙工芸品と受注作業

～しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、一年を通してパーツ作に取り組み、完成度をより高める事が出来ています。干支のしめ飾りやパーツのデザインなど、毎年少しずつ替えながら、お客様に喜んで頂ける製品作りを心掛けています。毎年、全国より沢山の注文も頂き、利用者さん一人ひとりの活動意欲となっております。受注業務では、町内の公園清掃や文房具、カレンダーの封入、箱折等、季節に応じた様々な作業や委託業務へと取り組んでいます。ウエス製造も、定期的に注文を頂ける顧客も出来、売上へと繋がっています。一人ずつが担える工程を細分化する事で、皆の力が集結し、様々な作業も達成する事が出来ています。

□やりがいや楽しさを創出する活動

- ・作業活動のほか、体を動かすかるたやトランプゲーム、季節に応じた制作、映画鑑賞等、様々な余暇支援を通して、息抜きと通所する楽しみを大切にしています。曜日毎に、作業と活動の時間を区切り、活動を通して、様々な事へと興味をもち、やりがいや達成感への創出に繋がるよう、取り組みを進めています。

■権利擁護

利用者さんの障がい特性や年齢も様々であり、利用者さん同士の人間関係など、日々の細かな対応が求められる中では、スタッフ朝会、会議時のケース報告で日々話し合う事を積み重ねました。限られた時間の中で答えが出るものとそうでないものがありますが、支援上の課題を共有することや情報共有の機会にもなっています。

■ 苦情解決

今年度の苦情・要望受付は 0 件でした。相談受付箱に投函された苦情や要望はありませんでしたが、利用者さんが抱える不安や悩みを日々聞き取り、話しをする機会を設けています。少しでも、利用者さん一人ずつが過ごしやすく、通いやすい環境を整え、職員がすぐに相談、解決へと応じられる支援が出来ればと考えています。

■ 感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから例年実施している利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。体調不良者は、厨房に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんの体調管理と共に衛生面の確保に変わらず配慮しました。加えて、新型コロナウイルスの対策を重点的に行なっています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、健康状況の変化の把握、交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を行ないながら進めました。

実際に体調が悪くなった際は、通所前にご家庭と連絡を取り合い、実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらうなどの調整も今年度も強化して行なっております。

■ 災害対応・事故対策

今年度の避難訓練は、感染症対策の観点から、職員のための自主訓練 1 回、利用者さんと職員合わせた自主訓練 1 回を実施しています。事業所全員が、1 か所に避難で集まることは、感染リスクが高まるため、避難場所を事業班毎に設定し、密を避けながら、地震や火災を想定した通報、避難までの訓練を実施しています。地震や火災発生時の注意点や、避難経路、避難口の判断、優先順位などを利用者さんへお話ししています。常に動きを想定、イメージすることの大切さを改めて再認識し、避難の対応について、学ぶ機会となりました。

■ 年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は、新型コロナ感染状況を踏まえながら、12月に実施しています。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	17	18	18	18	18	18
総支給額	355,300	344,200	312,300	383,500	323,300	309,200
平均額	20,900	19,122	17,350	21,306	17,961	17,178

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	18	18	18	18	18	18	215
総支給額	352,900	332,700	986,100	345,300	298,400	1,331,900	5,675,100
平均額	19,606	18,483	54,783	19,183	16,578	73,994	26,395

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	16	16	16	16	16	16
総支給額	192,800	166,800	149,000	187,200	164,200	140,600
平均額	12,050	10,425	9,313	11,700	10,263	8,788

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	16	16	16	16	16	16	192
総支給額	163,200	171,800	538,600	168,700	146,100	543,100	2,732,100
平均額	10,200	10,738	33,663	10,544	9,131	33,944	14,230

□事業所全体の平均工賃月額 ￥20,656／月（平均33.9名）

5. 課題

今年度も、コロナウイルス感染状況により、生産活動の収入や活動内容にも大きく影響を受けております。就労事業でも様々な工夫を重ね、変化したことで得たことも大切に、小さな結果も積み重ねることにより、売上へと繋げています。しかし、維持することは出来ても、大きな成果は出ることが少なく、大きな工賃の向上には繋がりませんでした。感染予防の観点から、健康観察して頂く方も多く、利用率に結び付かない状況もありました。高齢化に伴う支援の強化も求められ、環境整備や支援の検証と見直し、今後はより必要と感じています。利用者さんが安心して、毎日作業や活動に通所出来、自分の役割を担う事が工賃に繋がり、遣り甲斐へと感じて頂ける場所が何より必要と感じています。生活スタイルの変化が求められる状況の中、我慢する事だけではなく、楽しみや達成感が感じられるような支援を、今後も強化していきたいと考えています。

就労事業の報告

■事業班名：レインボー&クリアー

1. 取組みの概要

クイリング製法で作成した、しめ飾りや季節ものの製品作製、ウエスの製品製造へと取組む「レインボー班」と、企業や仲間の施設から請負う様々な下請作業、地域の公園清掃委託へと取組む「クリアー班」の二つに分かれて活動を行ないました。

「レインボー班」のしめ飾り作りでは、毎年デザインを変更しながら、購入して頂いているお客様に、喜んで頂ける様、作製と販売を進めています。

ウエスも、顧客の方から、継続的に注文を頂き、希望するサイズに裁断しながら、納品を行なっています。



「クリアー班」では、10月より新たな企業より、箱折りの委託を請け、作業を始めています。新たな作業工程や内容となりましたが、クリアーの利用者さんに作業内容がマッチングした様で、とてもスムーズに進める事が出来ています。仲間の施設からも缶バッチ製作や瓶のラベル貼りの委託を受け、一つひとつ丁寧に進め、納品を行なっています。公園清掃では、昨年同様、空知の風のロゴ入りジャンパーを着て、4つの地域の公園清掃に取り組みました。また、NPO 法人シンクタンクからの下請作業となる、玉ねぎの梱包作業では、1箱10キロの重たい玉ねぎの運搬や選別作業もありますが、皆で協力しながら、美味しい玉ねぎが一人でも多くの方に届くことを願い、地方への発送作業を進めています。



2. 成果

今年度は、企業からの請け負う仕事が増えたことで、一人ひとりの役割や工程が分担出来ることで、利用者さん達のやりがいやスキルアップにも繋がっている様に感じました。従来からのクイリング製法での製品作りを得意とする方、ウエスの裁断やごみ取りを得意とする方、箱の折り目に沿って、箱折りが綺麗に出来る方等、それぞれ得意な事や、新たな挑戦をしたいという意欲が高まり、作業へと取り組む事が出来ていたと感じています。

3. 課題

企業や顧客に不利益にならない様、事業を進めることが大事だと感じています。しかし、取り組める作業内容や進み具合も個人差がある為、効率的に、利用者さんが取り組みやすい環境設備が必要と感じています。作業の安定は、利用者さんの心身の安定にも繋がるため、持っている力を最大限に引き出しながら、声掛けや誘導の支援が必要であると感じています。

■事業班名：ぱん工房春いろ

1. 取組みの概要

長引く新型コロナの影響で、納品先の再開が思うように進まず、販売先の規制も継続されています。販売へと行けない分、店舗の新商品開発に力を入れ、皆で意見を出し合いながら様々な試作を繰り返し行ない、商品化する事が出来ています。

また、夏のお中元やクリスマス等、期間限定のギフトや商品も利用者さんのご家庭に紹介させて頂き、ご協力頂いております。仲間の事業所からも、クリスマスケーキや菓子セット等、様々なイベントに合わせて受注が入り、売上にも繋がっています。パンやロールケーキも道内、道外の事業所から、定期的に注文を頂き、冷凍発送も継続しています。

今年度は、「日本農福連携協会」に法人で加盟しております。春いろのパンや焼菓子も登録しており、農福連携協会の紹介により、札幌矯正管区が栽培、収穫した「さつまいも」を使用したスイートポテトとロールケーキを製造販売しております。



2. 成果

新商品の入れ替え等により、店舗のパンの売上が伸びています。春いろイチオシの商品である、キタノカオリ食パンや生食パンを購入されるお客様が徐々に増え、食パンブームの影響もあり、リピーターも付いてきていると実感しています。新規の保育園やキッチンカーでの販売を行なっている個人の方からもドックパンの注文が入る等、新たな取引先も増え、売上へと繋がっています。また、利用者さんのご家族の好意により、友人知人へと宣伝して頂き、定期的に注文を取りまとめて頂く等の協力もあり、積み重なる売上が春いろの支えともなっています。様々な縁もあり、光陵中学校様より、卒業生と在生徒さんへPTA様よりプレゼントをしたいとの依頼が入り、シフォンケーキ、パウンドケーキ等のお菓子の納品もさせて頂き、大きな売上に繋がっております。

3. 課題

食品表示法やHACCP義務化に向けて、日々取り組んでいる所ですが、法律を正し理解していくことや、キャッシュレス化が進む中、誰でもスムーズにレジ操作や対応を行なえるようにしていきたいと考えています。1つの製品として、安全にお客様へ届けられているか等、適切なチェック体制作りが、今後とても大切だと感じています。原材料や資材、原油の高騰により、商品の価格や規格の見直しも必要であると感じています。現在注文を頂いている納品先を大切に、より多くの顧客も開拓しながら、売上増を目指していけたらと思います。少しでも利用者さんの工賃へ還元出来る様、チームで協力しながら、売上へと繋げていけるよう、努力していきたいと思っています。

■事業班名：さんくつく

1. 取組みの概要

さんくつくでは、たのしいどうに通所されている方の昼食製造作業の他に、グループホームの朝食製造と夕食の一部製造作業を行なっています。昼食製造では、利用者さんに喜んで頂ける献立を目指しています。グループホームの朝食・夕食製造では、作った料理を食数に合わせて計量し、正確に分けるよう心掛けています。また、衛生管理に気を付けながら、安心して食べて頂けるように、食品の管理や製造を皆で協力しながら、取り組んでいます。



2. 成果

昼食製造では、引き続き、仲間の事業所の製品を使った献立立案や、珍しいメニュー、また、手作りデザートを献立に取り入れる事で、作る利用者さんも楽しみながら製造へと取り組んでいます。毎月、旬の食材を使ったメニューを取り入れる事で、食べて季節感を感じられるように心掛けています。月1回のお楽しみメニューでは、利用者さんが喜んで頂けるメニューを考え、工夫しながら提供しています。作業の中では、利用者さんのペアリングに考慮し、作業場所2か所を活用することにより、働きやすい環境の配慮や時間の工夫等も行なっています。

グループホームの朝食・夕食製造では、製造だけではなく、業者から届いた食材の検品業務、保管、管理等も合わせて取り組んでいます。検品時に問題があれば対応し、対応した内容をホームの担当者に報告するなど、確認や報告はその都度行なっています。食材を計算する際は、電卓を使って利用者さん全員に取り組んでもらい、電卓の使い方や計算の方法も身に付ける事が出来ています。

また、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の記録は引き続き行ない、気になったことは記載し、より改善へと繋がる様な取り組みも行なえています。

3. 課題

衛生管理の面で、利用者さんへの声掛けや確認は、今後もより強化していく必要があると感じています。献立によって、利用者さんの1日の流れも変化してくるため、仕込みの量や作業工程、献立のバランスを考え、組み合わせの工夫や支援が大切だと考えています。より利用者さんの調理技術が高まり、色々な経験が重ねていける様、取り組んでいきたいと思っています。

■データ（たのしいどう）

1. 製造販売事業	売上 1 7 1 3 万円	工賃還元額	7 7 0 万円
2. 下請加工事業	売上 7 9 万円	工賃還元額	7 0 万円

令和3年度 きっちんどう 事業報告

1. 令和3年度事業の総括

令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が私たちの生活圏域に入り込み、誰もが知らないうちに感染してしまっているかもしれないという不安に脅かされながらの1年間でした。

ご家族の所属先で発症者が出て、ご家族が濃厚接種者となり、利用者さん本人が濃厚接触者の濃厚接触といったケースなどが日々の中で起こり、事業所でも自宅での在宅支援を必要とするケースが多々ありました。感染予防では、引き続き行なえることを皆で共有し、ご家族の皆様にも体調管理には細心の注意を払っていただきました。不調が見受けられた際には無理せず、他者との接触を避ける等、多くのご協力をいただきました。おかげ様で年間291日開所し、利用者さんを受け入れながら、活動を行なうことができました。

就労事業の製造販売事業の弁当製造販売では、昨年度同様に大口の受注は、0回。昨年度から販売ターゲットを個々の客層へ移し、毎日の製造販売数を増した効果と法人内部の利用者さんへの食事提供を任せていただけになったことで、このコロナ禍でも比較的安定した製造販売数を保つことができました。

感染症がまん延する中、様々な面で辛抱することが続く生活でストレスをためてしまっている利用者さんに、縮小した形となりましたが事業所内での行事を行なうなどして時折、楽しむ時間を設けて過ごしていただいています。

2. 実施事業

- 就労継続支援事業B型 定員14名 現員20名
- 生活介護事業 定員6名 現員5名

3. 令和3年度の利用状況

- きっちんどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	23	23	23	23	22	22	22	22	23	22	22	23	25	93.4%
開所日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用回数	477	441	472	473	446	443	474	446	468	430	389	475	5,434	

平均実利用数 18.7名（小数点第2位以下切り上げ）

■就労継続支援事業B型（定員14名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	18	18	18	17	17	17	17	18	17	17	18	20	103.1%
開所 日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用 回数	367	345	362	364	349	349	365	343	363	334	294	364	4,199	

平均利用数 14.5名（少数点第2位以下切り上げ）

7月から1名が事業利用を中止されています。

7月、12月に1名体験利用者、3月から新規利用者が利用開始しています。

■生活介護事業（定員6名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	70.7%
開所 日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用 回数	110	96	110	109	97	94	109	103	105	96	95	111	1235	

平均利用数 4.3名（少数点第2位以下切り上げ）

4. 取り組みの概要

□事業所内の生産活動

・弁当製造販売

令和3年度は、新型コロナ対策をしながらの活動となりました。これまで食品衛生上で取り組んでいた感染症対策「持ち込まない」「ひろげない」「つけない」「やっつける」と同様の視点から利用者さんが安心して通える事業所として新型コロナ対策に取り組みました。しかし、弁当受注の流れは生活新スタイルと共に変化し、皆さんが一同に介して食事をされることはなく、会議すらすべてオンラインへ移り変わった影響を受け、大口の弁当受注は、今年度も0件でした。感染状況は、飲食業に多大な影響を与えました。年度始めから、小口の営業先として北村遊水地の現場事務所から問い合わせをいただくなど、毎日利用していただけるお客様への対応を重視し営業先を確保。日替わり弁当については、前年度より1.13倍の増で冬でも安定した数を販売できました。10月からは、法人内GHの皆さんの夕食提供を担わせてもらうことになりました。同じ時間にたくさんの弁当を作ることも大事ですが、時間をずらして製造をさせてもらえることでゆとりをもって製造することができました。

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。併せて日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも実施。今年度は例年のように委員会を対面で行なう機会を持たず、書面での情報共有やオンラインの職員会議など「権利擁護」について取り上げています。また、事業所内でガイドブックを使用しながらパート職員を含め、小単位で権利擁護について、周知を行ない情報の共有を進めました。特に新しい職員に対しては知的に障がいのある方を支援するための行動規範や、特性による個別な関わり方については繰り返し伝えています。

■苦情解決

苦情受付については、令和3年度0件となっています。

苦情として受け付けた結果は0でしたが、日頃から利用者さん同士の関わりから発生するトラブルや悩みについて、個々の対応を行ない、不満をため込まないように相談を受ける等、悩みや不安が小さいうちに解消できるように日々対応を行なっています。

■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから実施している利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。感染症対策は、新型コロナウイルス対策にも共通することが多く、これまでの対策に新型コロナ対策を上塗りしながら、利用者さん、ご家族にもご協力をいただき、体調不良の際には、健康観察を行なっていただいたり、必要に応じて検査を実施するなど気を緩めず感染予防に努めました。混雑を避けるために、通所時の交通機関の利用時間変更や必要な送迎対応が出れば、ご家族と調整しながら進めました。

実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらうなどの調整も行ないました。

■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。今年度も消防署ではコロナ対策を講じており、消防署の立ち合いなしでの自主訓練となっています。近年、災害も多く発生しておりますので、地震想定避難についてや大雨による洪水になった時の避難についても避難訓練と合わせて、学ぶ時間を設けています。

慌てず、安全に避難することの大切さについてもDVDの視聴で学んでいます。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケース会議・・・利用者について担当より報告し、事例検討を実施。支援方針を立案、共有しています。

■健康管理

今年度は、新型コロナ感染状況を踏まえながら、12月に実施しています。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	18	18	18	18	17
総支給額	467,700	412,300	383,400	460,100	429,800	411,800
平均額	25,983	22,906	21,300	25,561	23,878	24,224

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	17	17	18	17	17	210
総支給額	447,100	474,200	1,114,400	529,000	461,600	1,237,100	6,828,500
平均額	26,300	27,894	65,553	29,389	27,153	72,771	32,516

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	5	5	5	5	5	5
総支給額	85,500	76,700	66,700	85,200	77,000	68,700
平均額	17,100	15,340	13,340	17,040	15,400	13,740

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	5	5	5	5	5	60
総支給額	73,400	74,700	262,800	114,000	97,300	331,000	1,413,000
平均額	14,680	14,940	52,560	22,800	19,460	66,200	23,550

□事業所全体の平均工賃月額 ￥30,524／月（平均22.5名）

5. 課題

今年度も、新型コロナウイルス感染者が出ることなく終えることができました。市内での感染情報は現在も続いていますので、ご家族を含めた協力がなければ、今後、いつ感染がまん延するかわかりません。今年度、生産活動でもグループホームの食事を担わせてもらいました。法人内の食事を担えることは安定した収入にもつながりますが、皆さんの食事を欠かすことができない重責もあります。今後より一層、感染症対策を利用者さんと一緒に行ない、今年度のように1年間、元気に開所し、皆さんの食事を安心・安全な環境で作れるようにしなければなりません。衛生面、安全面に気を配り、利用者さんが元気に食事作りを担ってもらえる場として更に気を引き締めて取り組みます。

また、この2年間、外部との交流が希薄になってきています。利用者さんの活動の場を拡げていくためにも職員の繋がりを拡げていくことはとても大切なことでもあります。この状況下では外部の方と直接、何かを一緒にすることは難しいことではありますが、所属している団体の情報含め、現場の職員の皆さんにも活動の場を拡げられるような機会を作れるように努めたいと考えています。

就労事業の報告

■事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

製造販売事業班として、おにぎり・お弁当の製造販売、利用者昼食提供に取り組ましました。食品事故なく、コロナ禍でも安定した製造販売を行なうことができています。その安定して行なえた製造の一つに今年度10月より、法人内グループホームより夕食の製造を依頼されたことがそれにあたります。利用者さんの一日の一番楽しみにされている夕食ですので、利用者さんが喜んでいただけるように一生懸命作らせてもらっています。

各ホームへ届けてもらうため、盛り付け済みの仕出し方式と各ホーム毎に取り分け、現地で盛り付けをしていただく方式を交互で提供。少しでも夕食を楽しみにしてもらえるように工夫をしています。月に一度ですが、弁当屋ならではの「選択メニュー」で利用者さんに選んでもいただき、好きな弁当を提供する試みも行なっています。

おにぎりの製造販売では、これまで行事を中心に加熱調理して提供していた肉巻きおにぎりを冷凍食品として提供できるようになりました。これまでも冷凍保存の段階で検査などを行っていた経験が功を奏し、今後、皆様に冷凍状態で販売できるようになりました。



2. 成果

今年度も1年間、新型コロナウイルスに大きく影響を受けた1年でした。感染症対策は、これまで食品衛生で学んだ感染症対策と合わせて、新型コロナの対策が定着したことにより、体調を崩された方も大変少なく、食品事故も発生することなく進めることができました。

お弁当・おにぎり事業の収入では、前年度と比較すると収入額は伸びました。しかし、一般客からの収入額は維持が精一杯でした。10月より法人内グループホームから夕食提供の委託をいただいたことで、これまで行事やイベントで受注していた100個単位の大口受注以上のお仕事とすることができています。

おにぎりでは、今年度「肉巻きおにぎり」の冷凍食品化を実現。初販売を

2月徳島で行なわれました全国ナイスハートバザールにて出品。現地のスタッフの皆様の協力を得、50セットを完売することができています。

3. 課題

令和3年度は、個人客からの継続して弁当を利用していただけの方へと営業の方向転換を行ないました。大口受注のように一日短時間を頑張れば大きな収入を得られる結果の効率の良さはありませんが、個人のお一人おひとりに触れ合いながらの取り組みは弁当製造の大きな礎となりました。

製造が増えることは有難いことですが、対象が個人となるとお届けする配達先には限りが出てきます。お問合せをいただいても、配達対応できないため、お断りをさせて頂くケースも出てきています。

今後、コロナが収束し、以前のように社会活動が戻った際に、現在の弁当製造に追加して、行事やイベントなど大口の受注を受けることは難しい状況になってきています。

■ 事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理の実施。

全国の事業所製品の仕入れ販売を店舗にて行ないました。

2. 成果

自動販売機の売上手数料は、少ないながら毎月安定して得られています。

全国の事業所製品については、販売機会がなくなってしまったことで、店舗で紹介できる限られた商品になっています。

3. 課題

全国の事業所製品の販売では法人全体として取り組んでおり、イベントや販売時期も考慮しつつ仕入れる製品の情報収集を行ない、アピールし、販売に繋げられる力を付けていく必要があると感じます。

■ データ

- | | | | | | |
|----|--------|----|---------|-------|---------|
| 1. | 製造販売事業 | 売上 | 1,981万円 | 工賃還元額 | : 808万円 |
| 2. | 下請加工事業 | 売上 | 15万円 | 工賃還元額 | : 15万円 |

令和3年度 あかるいどう 事業報告

1. 令和3年度事業の総括

令和3年度は、引き続き感染予防に努めながら、作業・活動へ取り組みました。年明けから新型コロナウイルスの影響を受け、事業を休止する事となりましたが、ご家族のご協力も頂きながら、無事に在宅支援と健康観察期間を終えることが出来ました。この1年も長期間にわたり行動が制限され、抑圧的な気持ちで過ごす日もあったと思いますが、それぞれが作業や活動の中に楽しみを見出しながら事業所へ通い、取り組みを続けました。また、年度の途中から、プリント事業にも挑戦し、活動用 T シャツに利用者さん個人が選んだ絵画をプリントし、皆さんにお渡しすることができました。業務委託を受けていた老人施設の清掃とおしぼり巻き作業では、一人ひとりが責任感を持って作業に取り組みましたが、おしぼり巻きについては社会情勢の影響を強く受け、受託量が低迷し、今後の見通しを立てることも難しく、協議の結果、今年度末をもって清掃業務も合わせて契約終了となりました。

事業所内における創作活動では、岩見沢市アール・ブリュットギャラリーで、あかるいどうの利用者さん8名が作家として選ばれ、空知の風として初めて単独での展覧会が開催され、20点以上の作品が展示されました。また、北海道新聞の空知版には、障がい者アートを紹介する特集が組まれ、毎週のようにあかるいどうの利用者さんの作品が紹介される記事が掲載されました。このように利用者の皆さんが作者として年々注目度が高まっています。アート活動に取り組んでいる事業所として発信を続けてきたことが、少しずつ花を咲かせ始めていることを実感できた1年間でもありました。

2. 実施事業

就労継続支援事業B型	定員10名	現員10名
生活介護事業	定員10名	現員14名

3. 令和3年度の利用状況

■あかるいどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	24	24	24	24	24	24	24	24	23	22	23	23	23	95.4%
開所日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用回数	479	453	482	470	458	456	484	457	461	468	406	478	5,552	

平均実利用数 19.1名（小数点第2位以下切り上げ）

■就労継続支援事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	84.3%
開所日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用回数	217	191	218	206	205	205	213	201	201	208	174	215	2,454	

平均実利用数 8.5名（小数点第2位以下切り上げ）

■生活介護事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	13	13	13	13	13	13	14	14	13	13	12	13	13	106.5%
開所日数	25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291	
延利用回数	262	262	264	264	253	251	271	256	260	260	232	263	3,098	

平均実利用数 10.7名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・製造販売事業～日々の昼食製造と事業所間の昼食に使われる総菜造りを週2回のペースで取り組んできました。一人ずつが責任を持ち、自分達の仕事に自信をもって取り組んでいる様子が伺えるようになってきています。作る事の楽しみや達成感を大切に、「食」について関心を高め、調理技術の向上を目指しながら支援を実施しました。昼食に利用して頂いている惣菜も、年間を通して安定的な製造数で注文を受けることが出来ました。

・下請加工事業～企業から業務委託を受けている高齢者施設における清掃、おしぼり包装作業を、感染予防を徹底しながら1年間事故なく取り組みを続けることが出来ました。一人ひとりに責任感が芽生え、技術向上も見られています。しかし、特におしぼり巻き作業では、コロナ禍による影響を大きく受け、残念ながら今年度末をもって、全ての業務委託契約は終了となりました。

・アート活動～引き続き法人内の各店舗に飾るレンタル画を、利用者さんの特技を生かした技法で制作し、定期的に作品の入れ替えを行ないました。一人ひとりが好んだ創作内容や得意とする技法を選択することで、個々の才能が素晴らしい作品となって生まれました。また、岩見沢アール・ブリュットギャラリー

一にて、あかるいどうの利用者さんの作品のみでの展覧会が開催されました。自分の作品が選出されることで自信が芽生え、皆さんの創作意欲や創作技術の向上が見られました。



岩見沢アール・ブリュットギャラリー「空風展」



展示作品（一部）

■権利擁護について

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行われている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施し意識の向上を図りました。利用者支援において、事前に対応をチームで決める等、ケース対応について検討しました。また、身体拘束について学びを深めるための資料を作成し、職員へ配布しています。その他では、怪我をされた利用者さんを病院へお連れした際、診察した医師より虐待を疑われた事案があり、怪我が発生してしまった時のより迅速でより丁寧な対応が重要であることを職員間で確認し、徹底することとしました。

■苦情解決委員会

苦情受付については、令和3年度、受付件数は0件となっています。利用者さんから、日々、作業や生活している中で感じる疑問や悩み等の相談を受け付け、一人ひとり面談を行ないながら、随時解決へ向けての対応を行なっています。

■感染症対策

令和3年度は、新型コロナウイルス感染予防の対策を継続して取り組みましたが、

事業所内で感染者が発生し、事業を休止しました。法人による感染症対策本部が設置され、本部長指揮のもとに対応を実施。3週間に渡る事業休止の間、法人所有の抗原検査やPCR検査、道の無料PCR検査等を駆使して拡大防止に努め、待機している利用者に対して在宅支援を行ないました。ご家族からもご理解をいただき、無事に健康観察・休止期間を経過し、事業再開となりました。

■災害対応・事故

非常災害・事故対策では、避難訓練を実施しています。実施については、大声を出すことによる感染リスクを鑑み、災害DVDの鑑賞のみの訓練を行ないました。また、地震からの出火を想定した、大声を出しすぎない訓練を実施し、災害時の対応、避難経路、避難方法、避難先等を再度確認する機会としました。

■年間行事

日時	展覧会名	備考（出展者他）
9/17～21	いわみざわハート&アート 2021	渡辺さん、河上さん、木元さん、佐藤さん、小山さん、黒壁さん、吉成さん、大巻さん、大西さん、畠山さん、竹田さん、阿部新さん
9/30～10/2	みんなあ〜と 2021	コロナのため中止
10/6～10	北海道障がい者のアート展 みんなのイマジネーション	河上さん、黒壁さん、大巻さん、吉成さん、小山さん、畠山さん、佐藤さん、阿部新さん
11/19～1/18	アール・ブリュット「空風展」	河上さん、木元さん、畠山さん、小山さん、黒壁さん、吉成さん、竹田さん、阿部新さん

■諸会議

- ・法人全体会議・・定例で月1回実施。オンラインにて実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。

・ケース会議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

- ・今年度は、感染状況を見ながら１２月に健康診断を実施しています。日々の検温を含め、体調管理を徹底しました。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	11	11	11	11	11	11
総支給額	224,600	200,500	181,100	221,000	203,500	195,900
平均額	20,418	18,227	16,464	20,091	18,500	17,809

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	10	10	10	10	10	126
総支給額	214,000	217,000	525,200	226,500	171,700	753,600	3,334,600
平均額	21,400	21,700	52,520	22,650	17,170	75,360	26,465

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	13	13	13	13	13	13
総支給額	169,600	142,000	135,400	162,700	139,900	127,600
平均額	13,046	10,923	10,415	12,515	10,762	9,815

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	14	14	13	13	12	13	160
総支給額	149,900	150,000	350,500	149,300	131,400	368,200	2,176,500
平均額	10,707	10,714	26,962	11,485	10,950	28,323	13,603

□事業所全体の平均工賃月額 ￥19,269／月（平均23.8名）

5. 課題

令和3年度は、長引くコロナ禍にあって、企業からの業務委託、特におしぼり巻きの受託量が大きく影響を受けました。受託量の見通しが立たなかったことから、工賃の維持向上を目的とした作業種として、プリント事業に挑戦しましたが、委託業務との両立が難しかったために活動の幅は小さく、次年度に繋がる事業とするには多くの課題が残りました。日中活動として創作を進める上で、1点の作品を創り上げるまでに時間を要し、展示会へ向けた作品制作と、絵画レンタルの定期的な入れ替えやカレンダー制作など、常に期限に追われている状態が多かったと感じています。また、展示会による、利用者さんの芸術作品の啓発や、活動への成果報告に繋がることは確実に増えていますが、販売に向けた商品化を進める事に課題が残ったと感じます。

就労事業報告

1. 取組みの概要

■事業班名 下請加工事業 さんさん

「さんさん」では、企業からの業務委託として、介護付き有料老人ホームの清掃とおしぼり包装、検品作業に取り組み、事業所内では主に創作活動と館内清掃、水槽のメンテナンス業務に取り組みました。

創作活動では、各事業所へのレンタル画や展示会出展に向けた作品作りなど、アート制作活動に取り組みました。絵の具やクレヨン・サインペンを使用した絵画や立体作品等、個人作品から共同制作へと、1点ずつ心を込めて楽しく作り上げ、展示会に出展しました。また、岩見沢アール・ブリュットギャラリーにおいて、あかるいどう単体での展覧会「空風展」に8名の利用者さんが作家として選ばれ、多くの作品が展示されました。年末には、利用者さんの絵画をデザインとして取り入れた、2022年オリジナルカレンダーを制作販売し、お世話になった施設や役員の皆さんへ、法人からの挨拶としてお渡ししています。



アートカレンダー 2022

事業所内の清掃委託業務では、作業場、トイレの清掃、施設周りのごみ拾いや除草作業等を行ない、皆さんが過ごしやすい環境作りを目指し、取り組みました。また、企業からの委託作業では、スタッフと連携を取りながら、責任感を持って、1年間滞りなく作業を進める事が出来ました。今年度もコロナ禍という事もあり、体調管理により一層努力しました。利用者さんが自分の役割や、チームとしての協力体制、施設外での作業の取り組みへの意識等、やりがいや働きがいを感じながら、日々委託業務に当たりました。



事業所内や老人ホーム「オアシス」での清掃の様子

おしぼり巻き作業では、年間稼働日196日、107万本超えのおしぼりを巻いています。おしぼりにシミやゴミが付いていないか1枚1枚確認を行なった後、おしぼり巻き機に流す作業を行ないました。集中力や忍耐・体力を必要とする作業ですが、それぞれの役割に責任を持って作業に当たりました。



仲間と協力し合って100万本超え巻きました！

水槽の水替え作業は、水質管理の難しさがあり、一時期多くの魚が死んでしまう事象がありました。再度、事業主からの指導を受け、水の交換方法、塩分濃度、さらには水景を造る上でのポイントなどを学びながら、水質を安定させる事が出来ています。今後は外部への水槽設置管理を目指していけたらと思います。

■事業班名 製造販売事業 にこにこ

食品製造班にこにこでは、利用者さんの昼食製造と、各事業所へ納品するハンバーガーやサラダなどの惣菜製造を行ないました。少人数での取り組みですが、それぞれの役割に視覚情報を用いて明確にし、調理技術の習得を目指して取り組みました。また、衛生管理をしっかりと行ない、みなさんに安心安全でおいしい食事を提供できる様、努力しています。



2. 成果

施設外就労では、事業所の外で働くことを通じて、自身が担う作業に対する責任感が増しました。また、感染予防と体調管理を徹底したことで、安定的な取り組みとなりました。創作活動では、岩見沢アール・ブリュットギャラリーにおいて、あかるいどう単体での展覧会が開催されました。利用者さんにとっても事業所にとっても大変嬉しく名誉なことであったと思います。また、まなみーるで行なわれた「ハート&アート展」に多くの作品を出展し、岩見沢市の障がい者アートを盛り上げる事が出来たと思います。



いわみざわハート&アート展の様子

3. 課題

利用者さんの特性に応じた作業内容、ニーズに対応した個々の環境整備や治具、視覚情報の整備が、今後必要だと感じています。また、アート制作した作品を製品として製造、販売、継続したレンタルへと進められるように取り組み、より利用者さんのもつ感性豊かなアートの魅力を広げられる様、啓発活動により力を入れていく事が大切だと感じています。作業環境の改善への取り組みを続け、一人ひとりの利用者さんの生活や人生が豊かになるような、支援を目指していけたらと思います。

■データ（あかるいどう）

1. 製造販売事業	売上	380万円	工賃還元額	226万円
2. 下請加工事業	売上	352万円	工賃還元額	324万円

令和3年度 わくわくどう 事業報告

1. 3年度事業の総括

令和3年度は、日常的な感染症予防や対応を引き続き行ないながら活動へ取り組みました。利用者さんのご家族や職員の中にも感染された方がおり、健康観察期間中は一部の事業を休止しご家庭の協力もいただきながら在宅支援を行ないましたが、利用数も昨年と変わらず終える事ができました。

活動は、空知総合振興局5階で行なっている「そらかぜ食堂」の運営と市内にある、おしぼり工場「北海道クリーンアクト」での施設外就労、事業所内での印刷製造作業に分かれて支援を行ないました。

そらかぜ食堂は、5年間の随意契約として契約を結び2年目の年となりました。

食堂運営では、庁舎内職員の皆様の昼食を提供することは勿論、3密を避け食事の際の感染症対策を徹底して取り組みました。しかし、コロナ感染者の出入りが判明した事から念のため1月に2週間ほど臨時休業をして拡大防止に努め対応を行ないました。また、蔓延状況などで客数にも影響があり安定した収入確保が厳しい状況がありました。

北海道クリーンアクトでは、おしぼり製品の検品作業、回収済おしぼりを汚れに応じて仕分けを行なう作業に取り組みました。企業にも感染症の影響が続いており安定した作業量と収入の確保が難しく7月よりは6名から5名の利用者さんに変更し業務委託内容の見直しと変更を行ないました。利用者さん達は役割を担うことで成長し、やりがいを感じていますが作業の確保が難しい現状ではモチベーションの低下も見られ、協議の結果、今年度3月末で契約終了となりました。

2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員20名 現員14名

3. 令和3年度の利用状況

■ わくわくどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	60.5%
開所日数	25	23	26	25	24	24	26	24	24	23	22	26	292	
延利用回数	299	288	302	302	297	288	311	296	299	279	254	310	3,525	

平均実利用数12.1名（小数点第2位以下切り上げ）

14名の登録で利用されています。新たな利用者の受け入れはありませんでした。

■就労継続支援事業B型（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	60.5%
開所 日数	25	23	26	25	24	24	26	24	24	23	22	26	292	
延利用 回数	299	288	302	302	297	288	311	296	299	279	254	310	3,525	

平均実利用数 12.1名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

■利用者支援

□事業所内での生産活動

・「そらかぜ食堂」の運営

空知総合振興局5階にて、道職員の皆様を中心に食事の提供を行なっています。これまでの売れ筋の定食メニューの固定化や、お客様からの要望を取り入れて毎月の「期間限定メニュー」の新商品開発や試作を重ねつつ、材料コスト面の見直しも行ない価格調整も検討しながら取り組みました。感染症拡大予防のため道職員の皆さまも時間差出勤や在宅勤務などによる利用客数の変動や、蔓延防止期間後などは客離れなどが見受けられお客様は減少傾向で安定した状況とはなりませんでした。利用者さんの作業面では調理技術や接客技術の向上が見られ、それぞれ役割を担いながら協力して取り組みを進めています。

□施設外就労支援

・北海道クリーンアクトでの施設外就労作業

おしぼり仕分け作業・検品作業を行なっています。利用者さんも年々と技術も向上し責任感が感じられる様子が見られています。また、より質の高いおしぼり製品になるように、みんなで仕分け・検品作業の基準の確認を行ないながら衛生面を意識した取り組みが出来ています。商品の出荷が少ない時期には作業の確保が必要となり、昨年より準備を進めてきた印刷製造作業に携わりました。

□印刷製造作業

- ・北海道クリーンアクトの作業がない日の利用者さんの作業として、また7月よりは1名の利用者さんが専属で取り組みました。作業工程も少しずつ覚えて進める事が出来ています。繋がりのある事業所など沢山の注文を頂き、利用者さんの新たな取り組みと売上に結びついています。

■権利擁護

そらかぜ食堂8名、北海道クリーンアクト5名、館内作業1名と、分かれていることもあり、それぞれ現場で少人数での対応が行なえています。会議での報告などから話し合い支援中の声掛け、働きかけなど改めて権利擁護の視点から一つひとつの支援について考え、特性による個別な関わり方、課題を共有するなど情報共有の機会にもなっています。

■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は0件でした。日々利用者さんの悩みや相談の聞き取りをしています。特に利用者さん本人の作業へのスキルアップや、他利用者さんとの関係性についての相談が、日常での会話から聞こえてくる事もある為、その都度対応と見守りを行なっています。訴えることが苦手な利用者さんもあり、日々の表情や行動の変化に配慮し、親御さんとも情報交換を行ない、利用者さん自身ご家族が安心して利用できるための環境作りを今後も行ないたいと考えています。

■感染症対策

利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。食堂作業に携わる方は特に体調管理と衛生面に配慮しています。加えて、新型コロナウイルスの対策を重点的に行なっています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、健康状態の把握や交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を行ないながら進めました。

実際に体調が悪くなった際は、通所前にご家庭と連絡を取り合い、実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらうなどの調整も行ないました。

■災害対応・事故対策

今年度も、感染症を考慮し消防立ち合いの避難訓練は行なえず、職員のみ自主訓練を2回実施しています。同建物を利用されている業者との

合同避難訓練は実施できませんでしたが、地震や火災を想定し第一発見時からの行動や通報マニュアルの確認、避難誘導など、実践想定で基礎的な訓練を実施しています。また実際に避難はしごを使用して2階からの避難を行ない避難はしごの使い方も確認しています。様々な想定訓練や防災対策と同時に、作業活動先での避難方法なども職員間で共有する機会としました。



■2Fからの避難用はしご。

取り出す手順や、固定の仕方などを念入りに確認しました。

実際にはしごを使う際の注意点や避難時に必要な支援方法も話合いました。



■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は、新型コロナ感染対策を踏まえながら、12月に実施しています。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	14	14	14	14	14	14
総支給額	435,500	409,500	383,900	446,200	439,200	423,200
平均額	31,107	29,250	27,421	31,871	31,371	30,229

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	14	14	14	14	14	14	168
総支給額	446,500	466,400	865,900	477,200	401,000	802,400	5,996,900
平均額	31,893	33,314	61,850	34,086	28,643	57,314	35,696

□事業所全体の平均工賃月額 ￥35,696／月（平均14.0名）

5. 課題

今年度も、コロナウイルス感染症により、食堂運営の収入や活動、北海道クリーンアクトでの施設外就労の場でも大きく影響を受けております。利用者さんが毎日、安定して活動が出来る環境と、役割を担いながら工賃向上にも繋がり、やりがいを感じてもらえる場を維持することが重要であると感じております。

昨年より始めた印刷プリント事業の増産体制や、新たに取り組む施設外就労の取り組み等、今までとは違った環境で楽しみや達成感を感じてもらえるように支援をしていきたいと考えています。

就労事業の報告

■事業班名：そらかぜ食堂

1. 取組みの概要

空知総合振興局食堂の運営も7年目を迎えました。コロナ禍による影響がある中で、感染拡大の予防に徹し安心安全な環境作りや来店されるお客様にも感染予防の啓発に取り組みました。また日本遺産「炭鉄港」の労働者を支えた食文化メニュー再現の依頼を受け、試作を重ねて提供を行ないました。また清水町産の十割蕎麦も定着メニューに取り入れました。「安くて」「早くて」「美味しい」メニューを安全に衛生的に提供できる様に取り組んでいます。



炭鉄港：芦別ガタタンラーメン



炭鉄港：夕張カレーそば



清水町産十割そば

2. 成果

2015年開店以来、食品事故もなく営業を続けてくることができ、年間来客数は、17,165人、月平均1,430人、1日平均73人の来客がありました。非接触のキャッシュレス対応、3密回避、換気、黙食、マスク会食を実践し定着してきました。調理、盛付、清掃、接客、衛生管理記録等のスキルも向上することが出来ています。

3. 課題

世界的に食品価格が高騰してきています。食品ロスの削減、その日の提供する食数の判断、食材メニューの見直しや提供価格の見直しを行ない、利用者工賃還元額の上乗せに努めて行きたいと考えています。

4. データ

利用者実人数：8名

営業開店日数：232日（※1月2週間休業あり）

生産活動売上：941万円

工賃還元額：328万円

令和3年度年間ランキング

1位～A 定食	(24.8%)
2位～B 定食	(24.1%)
3位～小鉢	(8.2%)
4位～サラダ	(5.9%)
5位～カツカレー	(5.4%)
6位～カレーライス	(4.2%)
7位～ライス大盛	(4%)
8位～醤油ラーメン	(2.8%)
9位～おにぎり	(2.2%)
10位～味噌ラーメン	(1.9%)
(％はオーダーに占める割合)	



■事業班名：施設外就労

1. 取組みの概要

北海道クリーンアクトと業務委託契約を結び、おしぼりの汚れ度合いによる分別では、経験を積み判断の難しい仕分けも精度を上げてきております。また、おしぼり商品の異物混入や包装フィルムの破れ等を確認する検品作業も上達が見られています。コロナウイルスの影響による作業量の減少により作業がない場合、回収された未使用おしぼりの袋出しや、コンテナと台車の拭き作業を実施し、会社内での不足部分を担って進める事が出来ていました。

2. 成果

施設外での作業は、利用者さん一人ひとりに自信や、やりがいへと繋がっていたように思えますが、作業量の確保と収入面や工賃還元額に見合わず今年度末で業務委託契約を終了しています。

4. データ

利用者実人数：5～6名

生産活動売上：156万円 工賃還元額 ：149万円

■事業班名：自主事業班（印刷製造作業）

1. 取組みの概要

昨年より新しく始めた印刷製造事業ですが、全国の繋がりのある事業所や市内の企業より注文を頂き、様々なロゴのデザイン作成、Tシャツやマスク等へプリントし商品販売を行ないました。

2. 成果

商品の作製から出荷準備に至るまでの工程において、利用者さんの新たなスキルの習得が出来ています。



ラバーシートのかすとり作業



プレス作業



出荷準備作業

3. 課題

製造体制を安定させ、様々な商品の増産や営業を進めて行くことが必要と考えています。

4. データ

生産活動売上：268万円 工賃還元額 ：121万円

令和3年度 歩〜夢 事業報告

1. 令和3年度事業の総括

令和3年度の運営について、今年度2名の方が入居されました。4月に高等養護学校を卒業された方が1名、7月に他法人から就労先の通勤の為、1名入居合計36名となりました。

また、以前から計画をしていました、老朽したグループホームの新規移転を行なうことができました。

宿泊体験では、相談支援事業所や、他法人からの相談も含め体験希望があり調整を行っています。また、ご家庭の都合で長期の受け入れの相談もあり感染状況を確認しながら実施させていただきました。

余暇支援の面では、昨年度、全国的な感染拡大のため実施ができなかったグループホームの小単位外出の実施ができました。また、小人数ではありますが、イベントに物販販売の売り子として参加することもできました。全員が集まり行事を行なう事や遠出などの外出や買い物に行くことは難しかったのですが、できる限り皆さんが楽しめるよう工夫しました。

利用者支援について、感染状況により、通所先の事業所が一時閉所されることがあり、その期間利用者さんは、皆さん自宅待機となり、接触を最小限にするために、自室で過ごされる事が多く、皆さんかなりストレスを抱えてしまいました。買い物にも行けない為、職員の方で必要な買い物を確認し代行で買い物を行うように支援をさせて頂きました。

昨年同様に、行動制限がかかり、大きな行事を開催することは出来ませんでした。今後、感染症予防を行ないながら余暇活動の充実と、一人一人個別の暮らしの質の向上に努め、人権擁護や虐待防止に一層取り組み、日中活動との連携を重視して事業を行ないたいと思います。

2. 実施事業

共同生活援助事業所（合計定員40名）※宿泊体験5名含む

春が来た荘	定員5名	現員5名	
夏色荘	定員5名	現員3名	（宿泊体験 2名）
秋いろいろ荘	定員5名	現員4名	（宿泊体験 1名）
冬暖荘	定員5名	現員4名	（宿泊体験 1名）（7月閉所）
ハラダハイツ	定員2名	現員2名	
コーポハラダ	定員2名	現員2名	
桜なごみ荘	定員4名	現員4名	
もみじ色づき荘	定員5名	現員4名	（宿泊体験 1名）

ふきのとう 定員 3 名 現員 3 名
 みないい荘 定員 4 名 現員 4 名
 虹のかけはし荘 定員 5 名 現員 5 名 (6 月開所)



3. 令和 3 年度の利用状況

※定員 40 名 (宿泊体験 5 名 : 4 月~3 月) ※年間 365 日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	38	40	40	38	37	39	37	39	38	38	36	36	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	1,050	1,068	1,080	1,084	1,077	1,071	1,102	1,068	1,063	1,067	982	1,091	12,803

※平均実利用者数 35.1 名 (小数点第 2 位以下切り上げ)

※令和 3 年 4 月から令和 4 年 3 月までに入居された方は男性 1 名、女性 1 名でした。

※令和 3 年 4 月から令和 4 年 3 月まで退所された方はいませんでした。

今年度については、新型コロナウイルス感染症対策の為、帰省を一時中止させて頂いた期間がありました。今後もご家庭の協力を頂きながら、感染症対策を行ないながらの帰省対応になっていくと思います。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	3	5	4	2	1	3	1	3	2	2			
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	14	20	36	15	3	13	5	13	4	4	0	0	127

宿泊体験の利用については感染症状況を見ながら受け入れを行なっています。

2月、3月については、感染状況の拡大により中止となりましたが、昨年度よりは、利用率は増加となっています。

宿泊体験の相談としては、他法人から市内に企業就労をされている方の生活の場の提供、また、相談支援事業所から新型コロナウイルスの影響で、精神的なストレスの緩和を考え利用希望の依頼など、様々なケース相談や見学希望があり対応をさせて頂きました。

4. 取組みの概要

■利用者支援

昨年度に続き、南町のエリアと市内中心部を拠点とした支援を行なっています。職員の動きについても、互いに連絡を取り調整を行なう事で効率よく支援ができるようになっていきます。しかし、今年度、感染症対策により一時的な事業所閉所に伴うグループホームの往来や動きに関し制限がかかり、全体的に十分な体制をとることはできませんでしたが、まちなかエリア・南町エリアの個々の対応と各事業所との連携により一人も感染者を出すことなく支援を行なう事が出来ました。また、新しい住居を開所したことで、古い建物を閉所するなど、住環境整備も行なう事が出来ました。今後の課題としては、他にも老朽化が懸念される建物がある為、今後も検討していく必要を感じています。

■権利擁護

今年度は、感染症状況を見ながら、世話人会議の場を作ることができました。パートの方は、人数の調整と時間短縮で開催を行ない、常勤については、出勤時に随時伝達を行ない、リモートで人権セミナーを受講した職員の報告書を全体で確認し周知しています。

また、リモートによる全体会議の場で権利擁護や虐待防止についての内部研修を実施しました。

また、身体拘束についても毎月事案等について確認をしております。今年度は、身体拘束に関わる事案に付いてはありませんでした。

直接的な身体拘束には至っていませんが、利用者さんのメンタル面で落ち着かなく外に飛び出してしまうことに対し、呼び止めとたり、暴言暴力的な行動が、見られたときに他者への安全確保を優先し間に入り声掛けを行なう事がありました。適切な対応とは何か、常に検討が必要と感じました。

■ 苦情解決委員会

今年度の苦情・要望が0件となっています。

担当者を含め数名の職員に対し口頭にて相談があり、内容によっては、職員に周知する事も了承をえて、全員で対応できるように致しました。

■ 感染症対策

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、マスク着用、うがい、手洗い、消毒の声かけ等の支援や住居内の消毒、換気を行っていた為、インフルエンザや他の感染症についても発症する方はいませんでした。

今後も引き続き新型コロナウイルスの感染予防を始めとした、感染症に関して、チェックシートを使用した体調の確認を行ない、グループホーム全体の消毒に努めています。買い物・外出・帰省などについても各家庭にご協力を頂きながら制限を行なっていきたいと思います。

■ 災害対応・事故対応

防火訓練では、各住居にて避難訓練を行ないました。昨年度同様に、消防署の立ち合いを行なわない形での自主訓練を行ないました。

災害対策の避難訓練では、DVD鑑賞を行ない自分たちの住んでいる環境ではどのような災害が予測されるかを考えました。また、非常食の作り方も学び実際に作り試食されています。皆さん真剣な表情で取り組み自分たちの住んでいる環境についても知る事が出来ていました。



避難訓練



今年度も、一度に降る雪が多く、除雪していても捨てる場所がなく積み上げていく状況でした。新規で開設をした「虹のかけはし荘」の物置が、雪の積み上げ過ぎにより半倒壊となりました。常に状況を見た判断が必要と感じました

また、大雪で道路状況が悪く悪天候の際には夜勤巡回も控えてはいましたが、車体の破損が多く目立っていたように思われます。職員にも道路状況をよく見て運転業務を行うよう周知しています。

■年間行事

令和3年度	内 容
4月～令和4年3月	各 GH ごとでの誕生日会を行なっている
5月4日	GW焼肉（たのしいどう駐車場）
8月11日	北村外出
8月24日	火災想定避難訓練（町中エリア）
8月26日	火災想定避難訓練（南町エリア）
9月19日	ステイ歩～夢焼肉
10月22日	グリーンランド外出
10月23～24日	そらコスイベント参加（4名）
10月27日	災害時避難訓練（みないい荘・夏）
10月31日	災害時避難訓練（虹）
11月9日	災害時避難訓練（もみじ・桜・ふき）
11月19日	災害時避難訓練（南町エリア）
11月21日	フレンドカレッジ
12月24日	クリスマス・忘年会
12月31日	大晦日
令和4年3月3日	ひなまつり

今年の帰省は、感染状況を考えご家族とも相談を行ない、親御さんのお迎えが可能な方や、近距離で職員の送迎が可能な地域を中心とし帰省を行ないました。なかなか以前のような行事は難しく、利用者さんが楽しんでいただけるような企画はできませんでした。

11月に空知知的しょうがい福祉協会が開催したフレンドカレッジは、オンラインでの参加となり、画面を見ながら体を動かしたり、クイズに参加したりと普段はできない体験をさせて頂き、良い思い出ができたと思います。



GW 歩～夢焼肉



北村温泉



クリスマス・忘年会



そらコス



誕生日会



フレンドカレッジ



今年度も、感染症対策で、毎年行なってきた行事を行なう事はできず、利用者の方からも沢山の外出や外食の希望もありましたが、実施するまでには至りませんでした。

来年度は、余暇の充実が図れるよう行事などを考えていきたいと思います。

■諸会議

- ・法人全体会議・・リモートを利用し月1回実施。
- ・事業所会議・・全体会議のほかに月1回実施。主に常勤の生活支援員を中心に、各利用者さんの支援上の課題や、設備、運営の仕方などの協議を行ないました。
- ・世話人会議・・月1回実施しています。感染者拡大により途中から、集まる事を中止。世話人を中心に、毎月資料を配布し情報の共有が行えるようにしました。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有して、支援の方向性について話し合いを行なっています。企業巡回が行えない為、定期的に企業に連絡をしています。

- ・給食会議・・感染症対策にて、担当学会議は中止とし資料等の確認を行いながら調整をしています。
- ・権利擁護担当学会議・・感染症対策にて担当学会議を中止しています。毎月の報告書を確認し、何かあれば連絡にて確認、参考資料等があれば随時配布を行い全員で情報の共有を行っています。

■健康管理

今年度、定例の健康診断は、感染状況を確認し12月に実施することができました。

企業就労の方については、企業先の検診結果を把握しています。また、健康診断の結果から、再検診が必要な方もいましたので、委託医に相談を行ないながら、再検査行なっています。

しかし、高齢化が進み、体調不良が訴えられない方もいる中、健康診断だけでは、健康状態の把握が難しいため、定期的な検診が必要であると感じています。

定期的に通院先の病院と連携を取り、感染状況を確認したうえで通院を行うよう調整をしました。

院外処方に変更させて頂き、市外での通院があった際も、担当医師との電話での診察で薬を処方して頂くことができ、接触リスクを減らす事が出来ました。

■支援記録

今年度は、健康診断などの結果から健康面に関する記載が増えたことや、全体日誌の記録や引継ぎが一層重要な支援情報であることを再確認しました。記載内容をエリアごとに分けたことで、確実に記録が残せ、情報共有がより確実になるように作成を行ないました。

また、昨年度に引き続き、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化などについて記載を行なっています。

家庭と調整については、感染症対策の為、帰省を中止している間は電話やメールを利用した報告をさせて頂き、帰省されている数名の利用者さんに対しては連絡帳を使用してご家庭とのやり取りを行ない、日々の体調の変化などについてお伝えをしています。

■職員研修

内部研修については、全体会議の場でのオンライン研修や、外部研修に参加された方の報告書を職員で回覧し内容の確認をいたしました。

世話人さんには、年度の始めに簡単ではありましたが、接遇・支援の基本姿勢・チームワークについてなどを研修しました。また、世話人さんからの意向で利用者さんとのかわりについて再度確認を行ないました。

その他は法人の研修計画に基づき研修参加を進めています。

参加した主な外部研修
全道施設長研修
権利擁護セミナー
空知知的障がい福祉協会 職員研修
全国社会就労センター総合研究大会
全道知的障がい関係職員研究会（幹部職員研修会）

■施設整備状況

今年度も、積雪量が多く除雪対応に追われていました。定期的な屋根の雪下ろしなども行なってきましたが、除雪、排雪が追いつかなく物置小屋を倒壊しています。その年ごとにはなるとは思います、積雪の状況を確認し適時グループホームの除排雪については気をつけなければならないと感じました。

また、今年度新規のグループホームを整備し開所することができました。並行して老朽化したグループホームの廃止をいたしました。

今後、後期高齢化もふまえた利用ニーズとしては、バリアフリーや高機能な設備の整った拠点機能のあるグループホームの整備を検討したいと考えていますが、古い住宅の整備も必要と考え、新たなグループホームの物件を用意していきたいと考えています。

令和3年度 地域生活支援事業 楽らく 事業報告

1. 令和3年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業「楽らく」は、三笠市、栗山町、南幌町の4市町村と委託契約をしています。今年度も、感染状況に応じたメニューの企画の工夫や、受け入れ人数を制限させて頂きながら、安全に受け入れできる体制を整えています。館内で実施できるメニューだけではなく、季節による期間限定となる外出メニューも組み合わせながら、余暇の充実や楽しみの提供を心掛け、提供しております。



ハイジ牧場での様子

2. 実施事業

□日中一時支援事業定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和3年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	25	21	21	23	19	19	23	25	21	15	17	19	
延利用回数	65	67	59	73	37	50	73	57	52	33	47	47	660

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間50回実施しました。

4. 取組みの概要

今年度も、感染の状況に応じて、メニューの工夫をしながら、実施しております。少しでも、季節限定的な外出メニューやイベントに合わせたお菓子作り、創作メニューが実施出来るよう、様々な取り組みに力を入れています。感染状況が拡大した際は、受け入れ人数の制限をさせて頂く等、ご協力やご理解を頂きながら、1年無事に終えることが出来ています。土曜日の短い時間の中ですが、利用者さんの息抜きや楽しみ、自分へのご褒美時間として、少しでも余暇の充実が提供出来ればと日々取り組んでいます。

5. 成果

時季に応じた限定メニューとして、いちご摘みやぶどう狩り、由仁ガーデンの園庭散策、ハイジ牧場での動物とのふれあい等の外出を通じて、室内だけではなく、広い空間で伸び伸びと歩き、体験することを通じて、仲間と一緒に楽しむ余暇時間を提供出来たと感じています。



いちご摘み



父の日カード作り



フルーツ寒天ゼリー作り



オリジナルうちわ作り

6. 課題

昨年度に引き続き、感染予防の観点から、受け入れの人数の制限やメニューの内容にも限定されることが多く、全ての利用者さんのニーズにはお答えすることは、現状も厳しい状況がありました。しかし、利用者さんの安全を第一に考えながらも、内容に飽きが出ない様、普段なかなか経験の出来ない活動を少しでも提案し、季節感や気持ちのリフレッシュを楽しく通して、今後も提供出来たらと考えております。充実した生活を送るためにも、余暇の充実、満足感へと繋がる工夫を続けていけたらと思います。